



写真提供 / 八戸市

八戸まちなか広場 マチニワ



会報 防災だより

2018
VOL.21

9月30日発行

CONTENTS

| | | |
|-----------------------------|----------|----|
| 1. ご挨拶 | 会長 大黒裕明 | 2P |
| 2. ご挨拶 | 消防長 上野統久 | 3P |
| 3. 八戸消防本部予防課職員紹介 | | 3P |
| 4. 第10回防災意見発表会 | | 4P |
| 5. 平成30年度定時総会 | | 5P |
| 6. 平成30年度事業計画 | | 5P |
| 7. 平成30年度新規加入事業所紹介 | | 5P |
| 8. 防火管理に関する資格取得講習会(後援) | | 6P |
| 9. 第41回少年消防クラブリーダー研修会(後援) | | 6P |
| 10. 新庁舎紹介 | | 7P |
| 11. 平成30年八戸消防広域圏内の火災概況(上半期) | | 8P |

題字揮毫 大黒会長



ご挨拶

八戸地域防災協会

会長 大黒 裕 明

防災日より第21号をお届けします。

相変わらず世界中で異常気象や火山の噴火、地震などが続いています。長い地球の歴史から見るとそんな時期があっても不思議はないのですが、今現在生きている私たちにとっては不安が募ります。今年の春先には当会と親しくお付き合いをしている大阪の枚方寝屋川防災協会の地域にも地震があり、幸いにも被害は少なかったようで安心しましたが、お見舞いの挨拶とささやかながら救援金を贈らせていただきました。理事会には報告しましたが、改めて皆様方にもお知らせをさせていただきます。さらに夏には台風や豪

雨の影響で河川の氾濫などがあつたようです。これも、「騒ぐほどではない」と事務局から連絡は受けていますが、来年の二月、当会の十周年記念事業の時には多数来八されるでしょうから、その際皆様方からもお見舞いの言葉をかけていただければ幸いです。

中心街に『マチニワ』がオープンし、訪れる人の休息所として利用されています。総ガラス張りの建物は中も明るくとても居心地の良い環境で、大画面のテレビも嬉しく、この夏の甲子園大会で八戸球児の活躍をご覧になった方もいらっしやるでしょう。これからさらに中身が充実し、いろいろなイベントが

催されるのですが、楽しみなことです。天災などで壊れたり、不逞な輩に傷つけられたりしないよう見守っていきたいと念じます。

市内ではないですが、階上の大蛇に『あるでいーば』という施設ができたのをご存知でしょうか。ドライブの休憩と地場の鮮魚や加工品の販売所を兼ね、

簡単な食事もできるところですが、眺めも良く、開設以来予想を超える盛況で人気スポットとなっております。その二階が、津波や高波に襲われた場合の緊急避難所の役目を持つているとのこと、七年前の教訓がこんなところに生かされているのかと嬉しく思います。現在建設中の蕪嶋神社社務所も緊急避難所になり得ることを見込んでいると宮司さんから聞き及んでおり、それぞれの人が、それぞれの立場で真剣に災害と向き

合っているのは頼もしい限りです。私たちも自分の関わる地域や事業所がどうしたらより安全安心な場所で開催されるのか、考え続けて行きたいとご提案申し上げます。

今後とも当会の活動に深いご理解、ご支援、ご協力をお願いします。





ご挨拶

八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部
消防長 上野 統久

会員の皆様には、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より、消防行政及び八戸地域防災協会事業の円滑な推進に格別の御尽力、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

また、貴協会におかれましては、10年の節目を迎えられ、これまで様々な防災活動を行い、災害に強い安全・安心な地域社会の構築に大きく寄与されてきたことに、深く敬意を表します。さて私こと、平成30年4月1日付けをもちまして消防長を拝命いたしました。

もとより微力ではございます

が、我々消防の究極、普遍の目標である『住民生活の安全確保』のため、全力を傾注して参る所存でありますので、よろしくお願いたします。

昨年を振り返りますと、7月に発生した九州北部豪雨、さらに7月から10月にかけて相次いで上陸した台風は、日本列島各地に甚大な被害をもたらしたところであります。

一方、首都直下地震・南海トラフ地震などの発生が危惧されているところですが、政府の地震調査委員会が、千島海溝沿いで今後マグニチュード8.8以上の超巨大地震が起こる可能性がある

るという新たな評価を公表したほか、三陸沖北部では、マグニチュード7クラスの地震が今後30年以内に90%程度の確率で起きると予想したところであります。

このような状況の中、幅広い危機管理の必要性が強く求められており、その一端を担う消防の責務は極めて重要と考えております。

どうぞ、今後とも、貴協会と当消防本部が一体となった消防行政の推進と、災害の未然防止及び被害の軽減に努めてまいりますので、御協力、御支援をお願い申し上げます。

結びに、貴協会のますますの御発展と、会員事業所の御隆盛をお祈り申し上げ、挨拶にかえさせていただきます。

予防課職員紹介

今年度、当協会事務局のある八戸消防本部予防課職員は、次のとおりです。

橋本 広功 (課長)

松坂 元 (課長補佐)

三浦 忠則

(副参事兼保安調査班長)

菊地 潤

(副参事兼設備指導班長)

◎小笠原 大樹 (副参事)

佐々木 隆行 (保安調査班主査)

沢田 信悟 (設備指導班主査)

岩澤 晃一 (設備指導班主査)

松井 孝成 (設備指導班)

石村 正平 (保安調査班)

松倉 敏昭 (予防査察担当)

中村 繁樹 (予防査察担当)

山内 秀夫 (予防査察担当)

田中正二 (予防査察担当)

△協会臨時事務職員▽

◎淡路 恵 (H29・12・1採用)

※◎は、事務局担当

今後とも、宜しく申し上げます。

第10回 防災意見発表会



定時総会に先立ちまして、「第10回防災意見発表会」が八戸プラザホテル2階桜の間において開催され、会員事業所から3名、消防職員1名の計4名の方が防災に関する発表を行いました。

発表者の貴重な体験や提言に、出席した多くの会員が聞き入り、大変有意義な意見発表会となりました。



上野消防長から、「本日、ここにお集まりの皆様が、今後、職場はもとより地域、そして家族に防災意識を広げていただくことをご期待申し上げます。」と講評をいただきました。

「消防と私」



株式会社八戸パークホテル
松橋 満幸さん

松橋さんは、中学生の頃の昭和57年に33名もの死者を出したホテルニュージャパンの火災をテレビで見ているとショックを受け、さらには父親からも「ホテルは危険だから勤めないほうがよい」と言われたことが、今でも心に残っているとのことでした。その後、ホテルに就職され、耐震補強工事や防火防災の両方でご苦労された中で、企業・組織・個人が一体となった防災活動に取り組もうと

する熱意がうかがえました。

「防災について」



八戸液化ガス株式会社
類家 英二さん

類家さんは、各地で発生している地震・津波・台風・集中豪雨などの災害から、大切な人の命を守るためにはどうしたらよいかと、日々ニュースを見るたびに他人ごとではないと感じており、東日本大震災から7年が経過した今、実際の災害時には、一人一人が防災意識を持ち、「自助」「共助」の重要性を知ることが必要であると訴えられました。

「子どもの城保育園で取り組んでいる防災・防火活動について」



幼保連携型認定こども園
こどもの城保育園
磯島侑希子さん

磯島さんは、勤務先で取り組んで

いる防災・防火活動の中で、災害に遭った時のために、「包丁を使わない防災給食作り」を園児に体験させていることなどを紹介し「子供たちが、いざという時にしっかりと行動できるように育てていきたい」との決意に満ちた発表でした。

「新しい連携のかたち」



三戸消防署 田子分署
上野寿希也さん

消防職員の上野さんは、今年2月9日に青森市で開催された、消防職員意見発表会の青森県大会に八戸消防本部の代表として出場、見事優秀賞を受賞されております。

「働き方改革」に伴う、核家族化や女性の社会進出が増えている中で、消防職員の非常召集時に子供の預け先がないという課題を解決すべく、「女性消防団員による災害時の保育制度」の導入を訴えられました。



平成30年度 定時総会開催

去る5月30日(水)、八戸プラザホテル2階プラザホールにおいて、会員110名が出席し、北向副会長の開会の言葉で、平成30年度八戸地域防災協会総会が開催されました。

総会に先立ち大黒会長からのご挨拶があり、その後、会長が議長を務め平成29年度の事業結果・収支決算報告及び平成30年度の事業計画・収支予算(案)を事務局が説明し承認・議決されました。



審議終了後は、功労者表彰が行われ、感謝状と記念品の贈呈が行われました。功労者表彰受賞者は次の方々です。

◎故田名部喜栄 前副会長(ご令室の田名部厚子様出席)、金正夫前副会長、島浦千晴前理事、柳谷利通前理事(欠席)、田端民夫前理事(欠席)、鳥谷部富子前参与(欠席)

最後に、椋沢副会長の閉会の言葉で総会は、無事に終了いたしました。また、総会後には同会場において、多くの来賓を招待しての懇談会が行われ、親睦が図られました。



昨年ご逝去された故田名部喜栄前副会長のご令室田名部厚子様へ感謝状と記念品を贈呈

平成30年度 事業計画

1 災害時要援護者支援事業

- (1) 住宅用火災警報器寄贈設置
- (2) 電気・水道、燃焼器具設備等の点検修理

2 防火防災思想普及事業

- (1) 火災予防運動用ポスター作成及び配布
- (2) 各種防火チラシ作成及び配布

3 研修

- (1) 消防設備等の研修
- (2) 各種施設等の見学
- (3) 講演会の開催
- (4) 消火訓練の実施及び各種訓練への参加
- (5) 救命講習の実施
- (6) 防災士の養成

4 機関紙の発行

5 消防関係資格取得講習会等の後援及び情報提供

- (1) 防火管理者新規講習会の後援及び実施の周知
- (2) 甲種防火管理再講習の後援
- (3) 消防設備士試験、事前講習会等の情報提供

6 幼年・少年・女性消防クラブの育成援助

7 加入促進事業の推進

8 八戸地域防災協会設立10周年記念事業

平成30年度 新規加入事業所紹介

○4部会

- ・ 有限会社 大坂室内
- ・ 八戸市立西白山台小学校

○5部会

- ・ 有限会社 佐藤鉄筋興業

○6部会

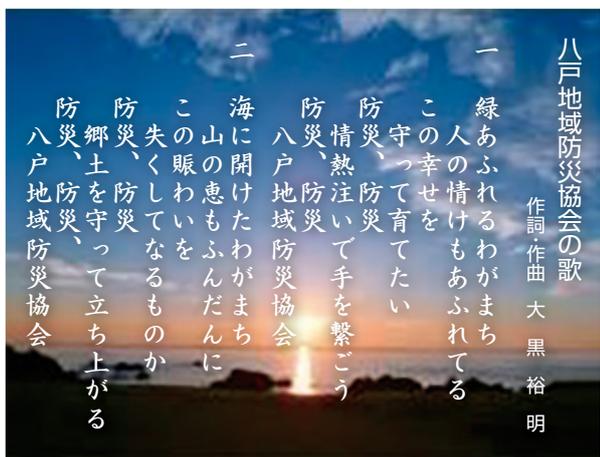
- ・ 株式会社 林材センター
- ・ 八戸電気工事業協同組合
- ・ みちのくバイオエナジー

株式会社

八戸地域防災協会の歌

作詞 作曲 大黒 裕明

一 緑あふれるわがまち
人の情けもあふれてる
この幸せを
守って育てたい
防災、防災
情熱注いで手を繋ごう
防災、防災
八戸地域防災協会
海に開けたわがまち
山の恵もふんだんに
この賑わいを
失くしてなるものか
防災、防災
郷土を守って立ち上がる
防災、防災
八戸地域防災協会



防火管理に関する

資格取得講習会（後援）



平成30年度の防火管理に関する資格取得講習会が、八戸消防本部5階の研修室において、6月27・28日、7月11・12日、8月1・2日の各二日間、計3回にわたり開催されました。

消防法により、一定規模以上の防火対象物は、防火管理の資格を有する者を防火管理者として定めることとなっており、本講習会は、その資格を取得するためのもので、八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部が主催、当協会が後援となり毎年開催されているものです。

甲種（すべての建物を管理できる）

のみ実施した今回の講習会では、計351名の方が防火管理の資格を取得されました。

新たに資格を取得された方々には、防火管理体制の充実、強化に御尽力されますようお願いいたします。



修了証の交付

第41回少年消防クラブリーダー研修会

及び消防体験研修会（後援）

種差少年自然の家において、7月25日（水）から7月27日（金）までの2泊3日で第41回少年消防クラブリー



ダー研修会及び消防体験研修会が行われました。今年にはクラブ員以外からも体験希望者を募り、4年生から6年生までの91名が参加しました。



アポロキャップを全員に贈呈しました。防災意識を育む目的で実施しているこの研修では、各々がリーダーとしての協調性や指導力を身に付け、災害時の状況判断や価値観を共有するため、避難訓練、消火訓練、地震体験、濃煙体験などを実施、さらには班ごとに火災・救急事案などの対応を寸劇で披露するスタンプを実施しました。

最終日には、3日間寝食を共にした仲間たちとの別れを惜しみ、涙する参加者もあり、充実した研修となった様子がうかがえました。



当協会は、研修会の後援となっており入所式では、大黒会長から励ましの言葉とともに記念品として少年消防クラブのシンボルマーク入り



五戸町の
「安心のシンボル」となる
防災拠点施設

五戸消防署



平成30年
7月23日 新庁舎竣工

1階 五戸消防署

2階 五戸消防署・五戸町消防団



訓練塔



五戸消防署は、旧庁舎からの移転を終え、新庁舎で業務を開始します。

この新庁舎は、大規模地震災害時に防災拠点としての機能を維持できる耐震性を有しており、また、太陽光発電設備やLED照明器具を導入し、経済性や環境にも配慮した庁舎となっています。

さらに、訓練塔をはじめとした各種訓練施設は、消防職員のみならず消防団等関係機関との連携訓練を実施することができ、各種多様な災害への対応力の向上が期待されます。

敷地は、大規模災害時に、緊急援助隊の集結場所として利用可能となっているほか、ドクターヘリが使用できる場外離着陸場も併設しており、五戸町の「安心のシンボル」となる防災拠点施設として、新たなスタートを切りました。

【庁舎概要】

敷地面積 6434.51㎡
構造 鉄筋コンクリート造
階数 地上2階
庁舎面積 1208.34㎡

【訓練塔の概要】

A棟 鉄骨造5階建て
(214.92㎡)
B棟 鉄骨造3階建て
(146.25㎡)

広域圏内の火災概況(平成30年1月1日～6月30日)

◇ 火災発生状況 ◇

平成30年上半年期の火災の発生状況は、総出火件数が71件で、前年に比べ21件の増加となっている。火災種別では、建物火災35件(前年比11件増)、林野火災7件(同2件増)、車両火災6件(同3件増)、その他の火災23件(同5件増)となっている。

焼損棟数は、49棟(同6棟増)、り災世帯は20世帯(同4世帯減)、り災人員は36人(同32人減)、死者は3人(同1人増)で、負傷者は6人(同12人減)となっている。

損害額は6,376万5千円(前年比876万円減)となってる。

△は減少

| 区 分 | 平成30年(A) | 平成29年(B) | 増減(A)-(B) | |
|--------------------------|----------|----------|-----------|---------|
| 総出火件数 | 71 | 50 | 21 | |
| 火災種別 | 建物 | 24 | 11 | |
| | 林野 | 5 | 2 | |
| | 車両 | 3 | 3 | |
| | 船舶 | | | |
| | 航空機 | | | |
| | その他 | 23 | 18 | 5 |
| 焼損棟数(棟) | 49 | 43 | 6 | |
| 程度 | 全焼 | 13 | 5 | |
| | 半焼 | 2 | 1 | |
| | 部分焼 | 13 | 10 | |
| | ぼや | 15 | △10 | |
| り災世帯 | 20 | 24 | △4 | |
| 程度 | 全損 | 7 | | |
| | 半損 | 1 | 1 | |
| | 小損 | 12 | 17 | △5 |
| り災人員(人) | 36 | 68 | △32 | |
| 死者(人) | 3 | 2 | 1 | |
| 負傷者(人) | 6 | 18 | △12 | |
| 建物焼損面積(m ²) | 2,265 | 2,266 | △1 | |
| 建物焼損表面積(m ²) | 243 | 292 | △49 | |
| 林野焼損面積(a) | 216 | 56 | 160 | |
| 損害額(千円) | 63,765 | 72,525 | △8,760 | |
| 種別 | 建物 | 60,603 | 70,891 | △10,288 |
| | 林野 | 1,291 | 986 | 305 |
| | 車両 | 1,084 | 553 | 531 |
| | 船舶 | | | |
| | 航空機 | | | |
| | その他 | 787 | 95 | 692 |

**住宅用火災警報器は、
10年を目安に交換を
おすすめします!**

New





Old



住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあるため、とても危険です。10年を目安に交換しましょう。

【設置時期を調べるには】 火災警報器を設置したときに記入した「設置年月」、または、本体に記載されている「製造年」を確認してください。

一般社団法人日本火災報知機工業会